

3 - 1 最近の伊豆半島北部の地震活動

Recent Seismic Activity in the Northern Part of Izu Peninsula

気象庁地震課・地震活動検測センター
Seismological Division & SAMC
Japan Meteorological Agency

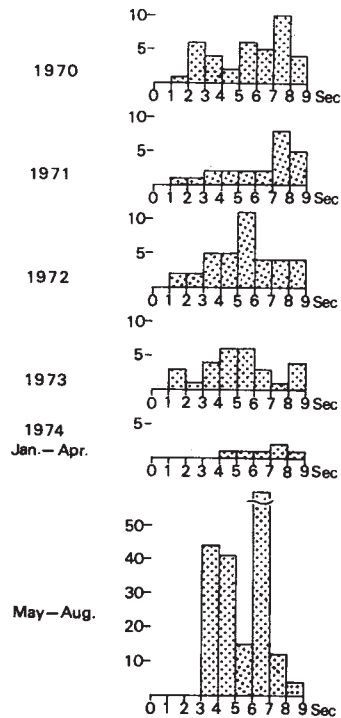
第1図は1970年1月1日から1974年8月31日までの間に気象庁観測網で震源決定した伊豆半島周辺に発生した地震の震央分布図である。この間の顕著な地震活動は図のように1974年5月9日の伊豆半島沖地震の本震とその周辺および天城峠付近に発生した地震であるが、その他にも常時発生している伊豆大島近海の地震と、神奈川県西部から山梨県東部の地震がある。また、箱根山には局地的に発生している火山性の微小地震がある。しかし、1930年11月26日の北伊豆地震の際発生した丹郡断層周辺には震源決定された地震がない。また第2図は同じ期間の網代で観測した地震のP-S分布であるが、これからも最近網代周辺で震源決定できないような小地震が増えているという兆候はない。伊豆半島北部の伊東、熱海周辺には歴史的には西暦841年の地震(M=7.0)や1930年の北伊豆地震(M=7.0)などの被害地震のほか、1882年(明治15年)9月29日-10月5日にかけて発生した群発性の熱海強震や、1930年(昭和5年)2月から5月にかけて発生した伊東群発地震などがあるが、南部地域に比べていずれも本震の前に顕著な前震を伴ったり、群発地震であったりしている。したがって、北部地域の地震の発生に対しては微小地震の監視が重要であるが現在は特別な変化は認められない。

なお、この調査は東京大学理学部地球物理学教室浅田研究室のご協力に負う所が多い。また、調査の一部は東京海上各務記念財団に援助をあおいだ。



第1図 最近の伊豆半島付近の地震活動（1970年1月～1974年8月）

Fig. 1 Distribution of epicenters near Izu Peninsula during a period from January, 1970 to August, 1974.



第2図 網代で観測した地震のS-P分布とその変動

Fig. 2 Distribution of S-P times observed at Ajiro and its variation.